

第209号

(昭和56年 2月)

目	次
関係法令..... 1	工学部長の改選.....10
学内規則..... 2	学位取得者.....11
富山大学大学院工学研究科規則の一部改正..... 2	文部省在外研究員派遣予定者の決定.....11
富山大学文理学部規則の一部改正..... 2	文部省内地研究員の決定.....11
富山大学人文学部規則の一部改正..... 2	学内レクリエーション.....11
富山大学トリチウム科学センター放射線障害 予防規則の制定..... 6	昭和56年度中に開催予定の主要会議及び大 会等行事予定.....12
諸会議..... 9	職員消息.....13
人事異動.....10	主要日誌.....13
学内諸報.....10	資 料.....16
教育学部長の改選.....10	昭和56年度富山大学入学志願者数

~~~~~

## 関 係 法 令

~~~~~

(官報掲  
載月日)

<b>政 令</b>	部を改正する規則(人事院9-40)	2・27
○一般職の職員の給与に関する法律の一部を 改正する法律の一部の施行期日を定める政 令(17)	○人事院規則(休日給の支給される日)の一 部を改正する規則(人事院9-43)	2・27
	○人事院規則(女子職員及び年少職員の健康、 安全及び福祉)の一部を改正する規則 (人事院10-7)	2・27
<b>規 則</b>	○人事院規則(職員の勤務時間等の基準)の 一部を改正する規則(人事院15-1)	2・27
○人事院規則(勤務を要しない時間の指定) の制定(人事院15-10)	○人事院規則(休暇)の一部を改正する規則 (人事院15-6)	2・27
○人事院規則(現行の法律、命令及び規則の 廃止)の一部を改正する規則(人事院1-4)	○人事院規則(職員団体のための職員の行為) の一部を改正する規則(人事院17-2)	2・27
○人事院規則(通勤手当)の一部を改正する 規則(人事院9-24)		
○人事院規則(期末手当及び勤勉手当)の一		

## 学 内 規 則

### 富山大学大学院工学研究科規則の一部改正

富山大学大学院工学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和56年2月20日

富山大学長 柳田 友道

#### 富山大学大学院工学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院工学研究科規則（昭和42年5月19日制定）の一部を次のように改正する。

別表各専攻共通の項中「| 応用物理学特論 | 2 |」を

「| 応用物理学特論第一 | 2 |  
| 応用物理学特論第二 | 2 |」に改める。

#### 附 則

- 1 この規則は、昭和56年4月1日から施行する。
- 2 昭和55年度以前の入学生については、なお従前の例による。

### 富山大学文理学部規則の一部改正

富山大学文理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和56年2月20日

富山大学長 柳田 友道

#### 富山大学文理学部規則の一部を改正する規則

富山大学文理学部規則（昭和26年9月7日制定）の一部を次のように改正する。

第5条中「別表(1)」を「別表」に改める。

第22条（見出しを含む）を次のように改める。

#### 第22条 削除

別表中「別表(1)」を「別表」に改め、別表(2)を削る。

#### 附 則

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。ただし、昭和55年度以前に入学した専攻科学生については、なお従前の例による。

### 富山大学人文学部規則の一部改正

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和56年2月20日

富山大学長 柳田 友道

#### 富山大学人文学部規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部規則（昭和52年5月16日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第3項中「別表」を「別表第1」に改める。

第15条の2の次に次の1条を加える。

(文学専攻科)

**第15条の3** 専攻科学生は、別表第2により必修科目20単位、選択科目10単位以上、合計30単位を修得するものとし、その履修方法は、別に定めるところによる。

2 専攻科学生の試験及び課程の修了認定は、第10条から第12条までの規定を準用する。

第21条の次に次の1条を加える。

(研究生)

**第21条の2** 研究生については、第16条、第17条第1項及び前条の規定を準用する。

別表に次の表を加え、「別表」を「別表第1」に改める。

**附 則**

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。



別表第2

授業科目及び単位数

専攻名	授業科目群		単位数		専攻名	授業科目群		単位数	
			必修	選択				必修	選択
文 学 専 攻 程	A 群	哲学特別講義 I		4	人 文 学 専 攻 程	E 群	考古学特別講義 I		4
		哲学特別講義 II		4			考古学特別講義 II		4
		西洋古代中世哲学史特別講義		4			考古学演習 I		2
		西洋近世哲学史特別講義		4			考古学演習 II		2
		哲学演習 I		2			特別研究(論文)	20	
		哲学演習 II		2					
		西洋古代中世哲学史演習		2					
		西洋近世哲学史演習		2					
	特別研究(論文)	20							
	B 群	日本史学特別講義 I		4	人 文 学 専 攻 程	F 群	人文地理学特別講義 I		4
		日本史学特別講義 II		4			人文地理学特別講義 II		4
		日本史学演習		2			人文地理学演習 I		2
		日本史学講読		2			人文地理学演習 II		2
		古文書学		2			特別研究(論文)	20	
	特別研究(論文)	20							
	C 群	東洋史学特別講義 I		4	人 文 学 専 攻 程	G 群	文化人類学特別講義		4
		東洋史学特別講義 II		4			文化人類学演習 I		2
		東洋史学演習 I		2			文化人類学演習 II		2
		東洋史学演習 II		2			文化人類学講読		2
		東洋史学講読		2			特別研究(論文)	20	
特別研究(論文)	20								
D 群	西洋史学特別講義 I		4	人 文 学 専 攻 程	H 群	言語学特別講義 I		2	
	西洋史学特別講義 II		4			言語学特別講義 II		2	
	西洋史学演習 I		2			言語学特別講義 III		2	
	西洋史学演習 II		2			言語学特別講義 IV		4	
	西洋史学講読		2			言語学特別講義 V		4	
	特別研究(論文)	20				言語学演習 I		2	
						言語学演習 II		2	
						特別研究(論文)	20		
I 群	比較文化特別講義 I		4	人 文 学 専 攻 程	I 群	比較文化特別講義 I		4	
	比較文化特別講義 II		4			比較文化特別講義 II		4	
	比較文化演習		2			比較文化演習		2	
	特別研究(論文)	20				特別研究(論文)	20		

専攻名	授業科目群		単位数		専攻名	授業科目群		単位数		
			必修	選択				必修	選択	
文 学 専 攻 程	語 学 文 学 専 攻 課	A 群	国語学特別講義	4	語 学 文 学 専 攻 課	E 群	ドイツ語学特別講義	4		
			国文学特別講義	4			ドイツ文学特別講義	4		
			国語学演習	2			ドイツ語学演習	4		
			国文学演習	2			ドイツ文学演習	4		
国語学講読	2	ドイツ文学講読	4							
国文学講読	2	ドイツ文学講読	4							
特別研究(論文)	20	特別研究(論文)	20							
文 学 専 攻 課	語 学 文 学 専 攻 課	B 群	朝鮮語学特別講義	4	語 学 文 学 専 攻 課	F 群	ロシア語学特別講義	4		
			朝鮮文学特別講義	4			ロシア文学特別講義	4		
			朝鮮語学演習	2			ロシア語学演習	2		
			朝鮮文学演習	2			ロシア文学演習	2		
朝鮮語学講読	2	ロシア文学講読	4							
朝鮮文学講読	2	特別研究(論文)	20	特別研究(論文)	20					
文 学 専 攻 課	語 学 文 学 専 攻 課	C 群	中国語学特別講義	4	語 学 文 学 専 攻 課	G 群	比較文学特別講義	4		
			中国文学特別講義	4			国文学特別講義	2		
			中国語学演習	2			朝鮮文学	特別講義	2	
			中国文学演習	2			中国文学			
中国語学講読	2	英文学								
中国文学講読	2	アメリカ文学								
特別研究(論文)	20	特別研究(論文)	20	ドイツ文学	講読	2				
文 学 専 攻 程	語 学 文 学 専 攻 程	D 群	英語学特別講義	4			語 学 文 学 専 攻 程	G 群	比較文学演習	2
			英米文学特別講義 I	4					国文学講読	2
			英米文学特別講義 II	4					朝鮮文学	講読
			英語学演習	2	中国文学					
英米文学演習 I	2	英文学								
英米文学演習 II	2	アメリカ文学								
英語学講読	2	ドイツ文学	特別研究(論文)	20						
英米文学講読	4	ロシア文学								
特別研究(論文)	20	特別研究(論文)			20					

## 富山大学トリチウム科学センター放射線障害予防規則の制定

富山大学トリチウム科学センター放射線障害予防規則を次のとおり制定する。

昭和56年 2 月20日

富山大学長 柳田 友道

### 富山大学トリチウム科学センター放射線障害予防規則

(目 的)

**第1条** この規則は、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第167号）第21条第1項及び人事院規則10-5（職員の放射線障害の防止）第22条第1項の規定に基づき、富山大学トリチウム科学センター（以下「センター」という。）における放射性同位元素（以下「同位元素」という。）の使用並びにその他の取扱いに関し、必要な事項を定め、放射線障害の発生を予防することを目的とする。

(総 括)

**第2条** 富山大学トリチウム科学センター長（以下「センター長」という。）は、センターの放射線障害予防業務を総括する。

(放射線取扱主任者等)

**第3条** センターに、放射線障害予防に関する業務を行わせるため、放射線取扱主任者（以下「主任者」という。）及び放射線取扱副主任者（以下「副主任者」という。）を置く。

(主任者及び副主任者の職務)

**第4条** 主任者は、放射線障害の予防について、必要な指導監督を行わなければならない。

2 副主任者は、主任者が不在の場合は主任者の職務を代行する。

(登 録)

**第5条** 同位元素の使用及びその他の作業に従事する者（以下「従事者」という。）は、あらかじめ別紙第1号様式の放射性同位元素作業従事者登録申請書に、管理区域に業務上随時立入る者（以下「随時立入者」という。）は、あらかじめ別紙第2号様式の管理区域随時立入者登録申請書にそれぞれ必要事項を記入の上健康診断書を添えてセンター長に提出して登録許可を受けなければならない。ただし、センター以外の者にあつては所属長を経由してセンター長に提出しなければならない。

2 従事者及び随時立入者は、登録事項に変更が生じた場合には、速やかに再提出しなければならない。

3 登録の有効期限は、1年とする。

(放射線管理手帳の交付)

**第6条** センター長は、放射線被ばくを最小限にとどめ放射線障害の発生を未然に防ぐため、被ばく線量及びそれに関連した事項を記録するための放射線管理手帳に従事者並びに随時立入者に交付しなければならない。

(同位元素の使用願)

**第7条** 従事者は、同位元素を使用しようとする場合には、別紙第3号様式の放射性同位元素使用願（以下「使用願」という。）に必要な事項を記入の上センター長に提出し、許可を受けなければならない。

2 従事者は、使用願に記載した事項に変更が生じた場合には、速やかに願い出なければならない。

(同位元素使用上の注意)

**第8条** 従事者は、同位元素を使用する場合には、主任者の指示に従い、放射線障害の予防に努めなければならない。

(同位元素の保管)

**第9条** 従事者は、同位元素の貯蔵又は保管については、主任者の指示に従い、次に掲げる事項を厳守しなければならない。

(1) 同位元素は、所定の貯蔵施設に貯蔵すること。

(2) 同位元素の使用が終了したときは、必ず所定の貯蔵施設に保管すること。

(3) 貯蔵庫から同位元素を持ち出すときは、漏えいの有無を必ず確認すること。

(同位元素の運搬)

**第10条** 従事者は、同位元素を使用施設内で運搬する場合には、主任者の指示に従い、次に掲げる事項を厳守しなければ

ならない。

- (1) 標識を付した所定の容器に入れ密封すること。
- (2) 標識を付した所定の運搬用具を用いること。

(同位元素の廃棄)

**第11条** 従事者は、同位元素又は同位元素によって汚染された物を廃棄しようとする場合には、廃棄物の物理的・化学的状态により区分し、主任者の指示に従い、適切に処理しなければならない。

- 2 従事者は、使用施設内の容器に収納した廃棄物を廃棄物保管室内の指定された廃棄物容器に移し替えなければならない。

(排水)

**第12条** 主任者は、液体状の同位元素又は同位元素によって、汚染された液を排出しようとする場合には、排水設備の排水口における排液中の同位元素の濃度が許容濃度の10分の1以下であることを確認しなければならない。

- 2 主任者は、排水口における同位元素の濃度及び排水量を記録しなければならない。

(排気)

**第13条** 主任者は、気体状の同位元素又は同位元素によって汚染された空気を排気しようとする場合には、排気設備の排気口における排気中の同位元素の濃度を許容濃度の10分の1以下としなければならない。

- 2 主任者は、排気口における排気中の同位元素の濃度を記録しなければならない。

(測定)

**第14条** 従事者は、主任者の指示に従い、放射線量率及び同位元素による汚染の状況の測定を当該施設の必要と認められる場所について行わなければならない。

- 2 従事者は、前項に規定する測定を1月を超えない作業期間ごとに1回行うものとし、別紙第4号様式の汚染検査記録に記録しておかなければならない。

**第15条** 従事者は、管理区域から退出する際に人体表面の同位元素による汚染状況についての測定を自ら行わなければならない。

- 2 従事者は、測定結果を別紙第5号様式の測定結果記録に記録しておかなければならない。

(記帳)

**第16条** 主任者は、同位元素の使用、保管、廃棄及び測定に関する事項の記帳を行わなければならない。

- 2 帳簿の保存期間は、記帳の閉鎖後5年間とする。ただし、人体が最大許容表面密度を超えて同位元素により汚染され、その汚染を容易に除去することができない場合の測定結果については、永年保存とする。

(教育訓練)

**第17条** センター長は、従事者並びに随時立入者にこの規則に定めるものの周知徹底を図るとともに放射線障害の発生を予防するために必要な教育及び訓練を行わなければならない。

- 2 センター長は、未経験者並びに経験の少ない者には、経験者の指導の下に作業を行わせ、同位元素の取扱い及び使用方法等を修得させなければならない。

(健康診断)

**第18条** センター長は、従事者及び随時立入者に対し、健康診断を受けさせなければならない。

- 2 前項に規定する健康診断については、3月を超えない期間ごとに1回行わなければならない。
- 3 センター長は、健康診断の結果の写しを本人及び主任者に通知しなければならない。
- 4 放射線障害を受けた者又は受けたおそれのある者は、直ちに主任者に連絡し、その指示の下に保健上必要な処置を受けなければならない。
- 5 主任者は、前項に規定する処置を執らせた場合には、速やかにセンター長に報告しなければならない。
- 6 主任者は、健康診断の結果を保存しなければならない。

(緊急時の措置)

**第19条** 従事者は、放射線障害を受けるおそれのある不測の事態が発生した場合には、主任者の指導の下に災害の拡大防止に努めなければならない。この際主任者は、直ちにセンター長にその旨を報告しなければならない。

- 2 前項に規定する事態が発生した場合には、学長は、遅滞なく科学技術庁長官に届け出なければならない。

(火災時等の措置)

**第20条** 従事者は、使用施設内で火災が発生し、又は使用施設に延焼のおそれのある場合には、消火又は延焼の防止に努めるとともに直ちに主任者及び消防署に通報しなければならない。

- 2 センター長は、前項に定めるほか、危険時の措置について、あらかじめ事故対策を講じておかなければならない。
- 3 センター長は、放射線障害が発生した場合又は地震、火災等により放射線障害が発生するおそれのある場合には、可及的速やかに必要な措置を講じなければならない。
- 4 前項に規定する事故が発生した場合には、学長は、遅滞なく科学技術庁長官に届け出なければならない。

(補 則)

**第21条** この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

**附 則**

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。

**別紙第1号様式**

トリチウム 科学 センター長	取 扱 主任者	事 務 担当者

昭和 年 月 日

富山大学トリチウム科学センター長殿

所 属 \_\_\_\_\_  
申請者 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_ ㊞

**放射性同位元素作業従事者登録申請書**

富山大学トリチウム科学センター放射線障害予防規則第5条の規定により放射線作業従事者として登録されるよう下記のとおりに申請します。

記

作業従事者 氏 名	ふりがな		職 員 学 生 その他	新 規 更 新	男 女
	大正 昭和	年 月 日 生			
所 属	職 員 その他	学 部 学 科 研 究 室		(TEL)	
		備 考			
	学 生	学 部 学 科 研 究 室		(TEL)	
		大 学 院 (TEL)			
備 考					
主 な 使用施設名					
研 究 題 目					
研 究 目 的					
登 録 期 間	昭和 年 月 日 ~ 昭和 年 月 日				
健 康 診 断	最近の受診年月日 昭和 年 月 日	結果			
申 請 許 可 有 無	※				
備 考					

(※印欄には記入しないこと。)

**別紙第2号様式**

トリチウム 科学 センター長	取 扱 主任者	事 務 担当者

昭和 年 月 日

富山大学トリチウム科学センター長殿

所 属 \_\_\_\_\_  
申請者 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_ ㊞

**管理区域随時立入者登録申請書**

富山大学トリチウム科学センター放射線障害予防規則第5条の規定により管理区域随時立入者として登録されるよう下記のとおりに申請します。

記

随時立入者 氏 名	ふりがな		新 規 継 続	性 別	男 女
	大正 昭和	年 月 日 生			
所 属	(学部) _____ (学科) _____ TEL _____				
登 録 期 間	昭和 年 月 日 ~ 昭和 年 月 日				
健 康 診 断	最近の受診年月日 昭和 年 月 日	結果			
申 請 許 可 の 有 無	※				
備 考					

(※印欄には記入しないこと。)



別紙第3号様式

トリチウム 科学 センター長	取 扱 主任者	事 務 担当者

昭和 年 月 日  
 富山大学トリチウム科学センター長殿  
 申請者  
 氏 名 \_\_\_\_\_ ㊞  
放射性同位元素使用願

記

数 量 (ci 数)	
形 状 (該当に○印)	固体 (寸法)      液体      気体
化 学 形	
使 用 の 目的, 方法	
使 用 場 所	
使 用 期 間	
備 考	

別紙第4号様式

汚 染 検 査 記 録

実 施 年月日	昭 和 年 月 日	実 施 者 氏 名	立 会 者 氏 名
スマア法による汚染検査		空間緑量率	部屋の見取図及 び検査箇所
1	11	a	
2	12	b	
3	13	c	
4	14	d	
5	15	e	
6	16	f	
7	17	g	
8	18	h	
9	19	i	
10	20	j	
Back Ground		Back Ground	
備 考			
トリチウム 科学センター 受 領 者		受 領 年月日	昭 和 年 月 日

別紙第5号様式

測 定 結 果 記 録

実施者 氏 名		実 施 年月日	昭 和 年 月 日
体表面 (B.G.      cpm)		左 手	胸部 _____
		右 手	腹部 _____
		左 足	_____
		右 足	_____
その他の部位			_____
			_____
			_____
呼気, 尿 (必要と考えられる場合のみ測定すること。)			
		呼気	(B.G.      cpm) _____
		尿	(B.G.      cpm) _____
備 考			

諸 会 議

昭和55年度第5回大学院委員会 (2月13日)

(審議事項)

- (1)昭和56年度富山大学大学院工学研究科 (修士課程)  
第2次入学試験合格者の判定について

昭和55年度第6回大学院委員会 (2月20日)

(審議事項)

- (1)富山大学大学院工学研究科規則の一部改正について
- (2)昭和56年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程)  
地球科学専攻学生募集要項について
- (3)昭和56年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程)  
第2次入学試験合格者の判定について

昭和55年度第11回評議会 (2月20日)

(報告事項)

- (1)昭和56年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程)  
及び工学研究科 (修士課程) 第2次入学試験合格者  
の判定について
- (2)昭和56年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程)  
学生募集要項について
- (3)教官人事について
- (4)学寮問題について

**(審議事項)**

- (1)富山大学大学院工学研究科規則の一部改正について
- (2)富山大学文理学部規則の一部改正について
- (3)富山大学人文学部規則の一部改正について
- (4)富山大学理学部規則の一部改正について
- (5)富山大学トリチウム科学センター放射線障害予防規

則の制定について

- (6)昭和56年度富山大学文学専攻科，教育専攻科，経済学専攻科，入学者選抜試験合格者の判定について
- (7)富山大学人文学部教授会規則の一部改正等について
- (8)富山大学教養部教授会規則の一部改正について

---

## 人 事 異 動

---

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任 命 権 者
採 用	56. 2. 10	松 島 珠 喜		事務補佐員（附属図書館）	富山大学長
昇 任	56. 2. 1	吉 岡 周 明	助教授（教育学部）	教授（教育学部）	文 部 大 臣
	〃	中 川 暉	〃 〃	〃 〃	〃
	〃	田 口 茂	講師（理学部）	助教授（理学部）	〃
併 任	56. 2. 1	佐 伯 信 男	文部技官（施設課）	文部技官（富山商船高等専門 学校会計課施設係）	富山商船高等 専門学校長
辞 職	56. 2. 28	森 田 義 則	事務補佐員（工学部）	辞職を承認	富山大学長
退 職	56. 2. 5	林 暁 代	教諭（教育学部附属中学校）	昭和56年2月4日限り任期満了により退職	富山大学長

---

## 学 内 諸 報

---

### 教育学部長の改選

大澤欽治教育学部長の任期が，昭和56年3月30日に満了することに伴い，教育学部教授会は，2月25日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果，現職の大澤欽治教授が再選された。

### 工学部長の改選

大井信一工学部長の任期が，昭和56年4月1日に満了することに伴い，工学部教授会は，2月25日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果，現職の大井信一教授が再選された。

## 学位取得者

取得者 人文学部・理学部 文部技官 小松美英子  
 取得学位 理学博士（北海道大学）  
 取得年月日 昭和55年12月25日  
 学位論文名 日本産ヒトデの発生，特にその系統学的考察

## 昭和56年度 文部省在外研究員派遣予定者の決定

種類	学部	官職	氏名	主たる滞在地名及び当該滞在地の属する国名	調査研究題目	派遣期間
長期(甲)	人文学部	教授	提山 淑郎	チュウビンゲン（西ドイツ） チュウビンゲン大学	ホーフマンスタールの研究	月 10
〃	教育学部	助教授	實 清隆	ボストン（アメリカ） マサチューセッツ工科大学 ボツフム（西ドイツ） ルール大学	欧米における比較都市地理学的研究	10
〃	経営短期 大学部	〃	松嶋 道夫	ロンドン（イギリス） ロンドン大学	家族問題と老後保障	10
短期	理学部	教授	斎藤 好民	オタワ（カナダ） カナダ国立科学研究所	極低温における金属物性の研究	1
〃	教養部	〃	河野 昭一	ヒツコリー・コーナース（アメリカ） ミシガン州立大学ケロック生物学研究所	高等植物の種分化および比較生態学	2

## 昭和56年度 文部省内地研究員の決定

学部	官職	氏名	研究場所	研究題目	研究期間
工学部	講師	大住 剛	京都大学	静圧流体を制御した軸受の研究	56. 5. 1 } 57. 2. 27
経営短期大学部	助教授	佐藤 良一	神戸大学	資本制経済と技術	56. 9. 1 } 57. 2. 27

## 学内レクリエーション

## 麻雀大会

実施月日 2月28日（土）  
 場所 富山大学職員会館  
 参加人員 15チーム 60名  
 成績

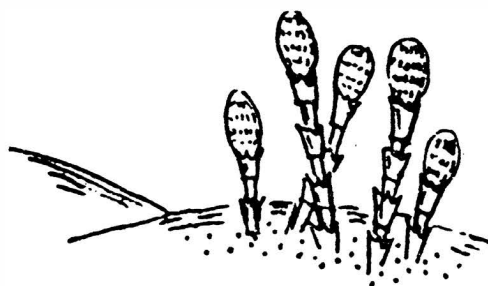
団体戦 優勝 工学部Aチーム（吉川，能登谷，山田茂，室谷）  
 準優勝 経済学部Bチーム（岡山，大聖寺，長崎，古川）  
 第3位 教育学部（山岸，河上，山田知，藤井）

個人戦 優勝 吉川和男（工学部）  
 準優勝 大聖寺一孝（経済学部）  
 第3位 能登谷久公（工学部）  
 名人賞 大山達雄（工学部）

昭和56年度中に開催予定の主要会議及び大会等行事予定表

期 月	日 日	会 議 名 称	主 催	会 場	参 加 範 囲
"	24	日本植物学会北陸支部大会	日本植物学会北陸支部	理学部2号館	国公立大学
6	12	昭和56年度教育研究協議会	教育学部附属中学校	教育学部附属中学校	主に県内
"	23	電子通信学会, 医用電子・生体工学研究会	電子通信学会	工学部	全 国
6月及び12月頃 (日は未定)		日本塑性加工学会 北陸地方委員会技術懇談会	日本塑性加工学会	"	北 陸 三 県
7	12	第33回北陸四大学学生総合体育大会	北陸四大学学生体育競技連盟, 富 山 大 学	富山大学ほか	北陸三県国立四大学
"	16~18	実函数論, 函数解析学合同シンポジウム	日本数学会実函数論, 函数解析学分科会	理学部2号館	全国の各研究機関海外からも参加予定
"	21~22	(仮称) トリチウム理工学に関する研究会	昭和56年度科研費核融合特別研究トリチウム理工学班(予定)	"	全国の研究機関
8	19~22	代数学シンポジウム	日本数学会代数学分科会	福祉会館	"
"	20前後	北陸三県地学地理学富山大会	富 山 地 学 会	滑川市ほか	北 陸 三 県
"	20~21	第3回東海北陸特殊教育研究大会富山大会	全日本特殊教育研究連盟ほか	教育文化会館ほか	東海北陸地区
"	27~29	日本第四紀学会	日 本 第 四 紀 学 会	富山市科学文化センター	全 国
9	未 定	昭和56年度東海北陸地区国立大学厚生課長会議	当 番 ・ 富 山 大 学	未 定	東海北陸地区国立大学
10	2	日本機械学会北陸地方講演会	日 本 機 械 学 会	富山工業高等専門学校	北 陸 三 県
"	3~4 (予定)	電気4学会北陸支部連合大会	電 気 4 学 会 北 陸 支 部	工 学 部	"
"	中 旬	国立15大学人文系学部長会議	当 番 ・ 富 山 大 学 人 文 学 部	人 文 学 部	全 国
"	未 定	第35回国立大学学生部次長協議会	当 番 ・ 富 山 大 学	未 定	全国国立大学
11	初 旬	第6回研究協議会	教育学部附属養護学校	教育学部附属養護学校	主に県内

(昭56. 2. 庶務課調べ)



### 職員消息

#### 《新任者》

##### 附属図書館

事務補佐員 松島珠喜

#### 《住所変更》

##### 人事課

職員主任 五百崎喜明

#### 教育学部

助教授 實 清隆

#### 理学部

助教授 對馬勝年

#### 《住所表示変更》

##### 教育学部

附属学校第一係長 白野 明

### 主要日誌

#### 本 部

- 2月2日 部課長会議
- 2～3日 東海北陸地区国立学校施設整備工事の打合せ会  
(於名古屋大学)
- 4日 富山地区人事担当課長会議(於富山大学)  
国家公務員給与等実態調査説明会(於金沢第2  
合同庁舎)
- 5日 営繕関係事情聴取
- 6日 週休二日制説明会(於名古屋国税局)  
富山大学構内交通対策委員会
- 9～16日 入学願書受付
- 10日 会計係長会議
- 12日 庶務係長会議
- 12～21日 第16回中部地区中堅係員研修(於名古屋合同庁  
舎第2号館)
- 13日 第5回大学院委員会  
放射性同位元素を取扱う作業従事者に対する講  
演会(於附属図書館視聴覚室)
- 16日 富山大学放射性同位元素委員会
- 17～27日 昭和55年度国立大学等事務電算化基幹要員研修

- 会(於筑波大学山中共同研修所)
- 18日 北陸地区国立学校事務電算化協議会(於金沢大  
学)
- 19日 富山大学学寮補導委員会  
第6回学園ニュース編集委員会
- 20日 第6回大学院委員会  
第11回評議会
- 3月
- 23～2日 会計事務内部監査
- 24日 週休2日制の実施に関する説明会(於東京大学  
工学部)  
第4回富山大学施設整備委員会  
入学者選抜方法研究委員会専門委員会
- 26～27日 給与実務担当者研修会(於国立名古屋病院)
- 27日 部課長会議
- 28日 昭和55年度学内麻雀大会

#### 文 理 学 部

2月16日 後学期授業終了

## 人文学部

- 2月5日 文学専攻科選抜検査  
 16日 後学期授業終了  
 17日 学部教務委員会  
 18日 教授会  
 21日 文学専攻科合格者発表  
 25日 学部補導委員会  
 27日 会計事務内部監査

## 教育学部

- 2月1日 附属中学校第1次選考(学力検査)  
 3日 附属小学校入学者選考(発育検査)  
 4日 合宿研修委員会  
 学部教務委員会  
 人事教授会  
 5日 附属中学校第2次選考(抽選)  
 6日 日本教育大学協会理事会(於東京学芸大学)  
 附属小学校入学者選考(抽選)  
 7日 教育専攻科入学者選抜試験  
 後学期授業終了  
 17日 予算委員会  
 18日 合宿研修委員会  
 学部教務委員会・補導委員会合同会議  
 学部教務委員会  
 教授会  
 人事教授会  
 19~20日 昭和55年度教員養成課程合宿研修(スキー)  
 (於栗巣野スキー場)  
 20日 日本教育大学協会第二部会理事会(於東京学芸大学)  
 24日 予算委員会  
 25日 学部長候補者選挙  
 26日 会計事務内部監査

## 経済学部

- 2月4日 学部教務委員会  
 教授会  
 6日 昭和56年度富山大学経済学専攻科入学試験  
 同上選考委員会  
 12日 財務委員会  
 14日 後学期授業終了  
 17日 拡大教務委員会

- 18日 学部教務委員会  
 教授会  
 21日 昭和56年度富山大学経済学専攻科合格者発表  
 25日 人事教授会  
 会計事務内部監査  
 27日 拡大教務委員会  
 学部教務委員会  
 28日 財務委員会

## 理学部

- 2月3日 学科主任会議  
 4日 学部教務委員会  
 9~10日 大学院理学研究科学力及び口述試験  
 10日 人事教授会  
 14日 学部教務委員会  
 16日 後学期授業終了  
 18日 学部教務委員会  
 19日 教授会  
 人事教授会  
 理学研究科委員会  
 21日 理学研究科第2次募集合格発表  
 23日 学部施設委員会  
 27日 会計事務内部検査

## 工学部

- 2月2日 事務連絡会議  
 3~4日 大学院工学研究科(第2次)入学試験  
 7日 学部教務委員会  
 10日 工学研究科委員会  
 専任教授会  
 教官選考委員会  
 講演会  
 演題「技術革新と有限要素法」  
 講師「東京大学生産技術研究所教授  
 川井忠彦」  
 13日 大学院工学研究科(第2次)入学試験合格者発表  
 17日 学部教務委員会  
 18日 教授会  
 専任教授会  
 20日 学部補導委員会  
 21~27日 修士学位論文口頭発表  
 23日 後学期授業終了  
 24日 会計事務内務監査  
 25日 教授会, 学部長候補者選挙

学部構内交通対策委員会  
昭和56年度入学者選抜学力検査実施打合せ会

### 教 養 部

- 2月4日 教授のみの教授会  
16日 後学期授業終了  
17日 内地・在外研究員に関する委員会  
18日 教授会  
23日 会計事務内部監査  
24日 教養部教務委員会

### 附 属 図 書 館

- 2月25日 会計事務内部監査

### トリチウム科学センター

- 2月13日 トリチウム科学センター委員会

### 経営短期大学部

- 2月5日 第5回財務委員会  
第15回教授会  
9～18日 昭和56年度富山大学経営短期大学部入学願書受付  
10日 第16回教授会  
21日 第1回推薦入学選考委員会  
23日 推薦入学者選抜試験  
第2回推薦入学選考委員会  
25日 会計事務内部監査  
26日 第17回教授会



## 資 料

## 昭和56年度富山大学入学志願者数

学 部	学 科 ・ 課 程	募 集 人 員	志 願 者 数	倍 率	前 年 度 率
人 文 学 部	人 文 学 科	90	316	3.5	3.95
	語 学 文 学 科	80	148	1.9	2.74
	計	170	464	2.7	3.34
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	140	293	2.1	2.16
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	50	133	2.7	2.92
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	20	66	3.3	5.75
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	30	145	4.8	3.67
	計	240	637	2.7	2.80
經 济 学 部	經 济 学 科	120	260	2.2	2.46
	經 营 学 科	120	360	3.0	4.00
	經 营 法 学 科	60	120	2.0	2.17
	計	300	740	2.5	3.02
理 学 部	数 学 科	40	96	2.4	2.60
	物 理 学 科	40	69	1.7	1.88
	化 学 科	40	82	2.1	1.75
	生 物 学 科	30	75	2.5	1.87
	地 球 科 学 科	30	78	2.6	1.90
	計	180	400	2.2	2.01
工 学 部	電 气 工 学 科	50	93	1.9	2.66
	工 業 化 学 科	45	158	3.5	5.29
	金 属 工 学 科	40	136	3.4	5.32
	機 械 工 学 科	50	104	2.1	2.90
	生 産 機 械 工 学 科	40	133	3.3	3.35
	化 学 工 学 科	40	92	2.3	3.17
	電 子 工 学 科	40	64	1.6	3.88
	計	305	780	2.6	3.75
合 計		1,195	3,021	2.5	3.05

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 中央印刷株式会社  
富山市下奥井1-4-5  
電話(32) 6572(代)